

ビニル床シート 注意事項

選択上のご注意

防滑性マークは、製品の防滑性を示す目安です。履物や歩行状態、水濡れや砂の持込み、使用したワックスの種類など環境によって大きく左右されます。選択の際の一つの目安としてご利用下さい。詳細は本カタログ522頁をご参照下さい。

機能別インデックスを参考に、建物の用途・環境に応じた製品を選択して下さい。

病院など抗菌性を求められる場所では、抗菌シートをご採用下さい。人体への影響が少ない抗菌剤を使用しておりますが、乳幼児が誤って経口する可能性のある場所では使用を避けて下さい。

- 暗所、アルカリ性雰囲気、高温多湿環境下において、床材の変色が発生する場合があります。これらの条件が揃わないように注意して下さい。そのような箇所へ床材を施工する際には、発生しても目立たない暗色系のご採用をおすすめします。
- NWシリーズ及び防滑性床材は、製品の特性上、素足や靴下での歩行時に素材表面がひっかかる事があります。上靴、スリッパ履きで使用する事をおすすめします。
- 歩行マークは製品の耐久性を示す目安です。歩行マーク以上の使用は避けて下さい。詳細は本カタログ517頁をご参照下さい。
- 下地から絶えず湿気の上昇が予想される場所では使用を避けて下さい。接着不良や臭気が発生する事があります。
- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認下さい。
- 淡色系・無地調の床材ほど濃色系に比べて汚れが目立ちやすくなります。また、フラットな表面形状に比べてエンボスが深いほど汚れが残りやすくなります。ご留意下さい。
- リサイクル材を使用している製品は、裏面の色や裏面の仕上り状態にバラツキが生じる事があります。リサイクル材を使用する事による品質への影響はありません。
- 床シートは熱には弱い性質を有しています。摩擦熱等により、床面に変色、変形が生じる事があります。
- 本カタログの掲載写真の一部に合成写真を含みます。
- 本カタログ掲載の写真や画像は、現物と若干違いのある場合があります。ご採用の際には必ずサンプル帳などでご確認下さい。

施工上のご注意

■ 施工前

- 施工の前に「東り施工マニュアル」をご一読下さい。
- 梱包紙に記載されている品名・品番・ロット・数量を確認の上、施工を開始して下さい。同一床面上は、同ロットで仕上げして下さい。
- 既設床への重ね貼りは、膨れ、伸び、突上げなどを招く可能性があります。
- 下地にワックス、グリス、油類、塗料、防蟻剤、防腐剤、アスファルト系接着剤（黒糊）、油性マジック、オイルステン、塩ビ配管用接着剤、朱墨等の汚れが残っていると、接着不良や床材を着色させる可能性があります。完全に除去した上で施工を開始して下さい。
- 床シートは室温になじませてから施工して下さい。室温と床シートに温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地スキ、突上げなどをおこす可能性があります。

■ 施工中

- シート裁断後、切り口が鋭利になる場合がありますのでご注意下さい。
- 接着の際は、製品の指定接着剤を使用し、5mmピッチのくし目ごてで均一に塗布して下さい。
- キャスター往来の多い部位では、接着剤の櫛山が残ると床シート表面に櫛目状の傷つきや汚れが生じる場合がありますので、適切なタイミングで床シートを貼り、施工後はローラーで十分に圧着して下さい。

- CFシートを施工の際、テープ工法での施工は貼直しがききませんので、ご注意ください。
- アンダーレイシートを使用する際は、上下面と同じ接着剤をご使用下さい。
- 必ず継目処理を施して下さい。
- 幅継ぎをする際は、耳部どうしてジョイントして下さい。
- 目地部は落し込みを使用してカットして下さい。もしくは東りリノカットで施工して下さい。
- 巻上げ施工の端部、壁際等、シート端部は指定のシール剤等で仕上げして下さい。
- 施工時には、カッターの刃をごまめに取替えて下さい。

下地は湿気のない平滑かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持して下さい。施工条件を順守しなかった場合、目地スキや突上げ、膨れなどを招く可能性があります。いずれも、美観を損ねるだけでなく、転倒事故などの原因になります。詳細は「東り施工マニュアル」をご参照下さい。

有機溶剤を含んだ接着剤を使用する場合は、火気に注意し、室内の換気を心がけ、有機溶剤作業主任者立ち会いのもとで行って下さい。有機溶剤は、引火しやすく、また多量に吸入すると人体に影響を及ぼす可能性があります。

施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。

■ 施工後

- 施工後は、エア抜きの後、ローラーで全面を圧着して下さい。圧着不良は、接着不良につながり、後日、床シートの反り、膨れ、突上げ、剥がれ、目地スキなどが生じる場合があります。
- 養生シートをとめる際、粘着テープは直接床材に貼付けしないで下さい。床シートを汚染する原因となります。
- 施工後、一週間は、直射日光や水洗い、冷暖房などによる急激な温度変化、重量物やキャスター椅子などによるしごきなどは避けて下さい。突上げ・目地スキ・剥がれ・へこみ跡などを発生させる可能性があります。特に冬季は接着剤の硬化が遅いので十分な養生期間をとって下さい。

施工後、残材等を廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。包装紙・紙管などを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分して下さい。床シートを燃やすと有害ガスが発生します。

メンテナンスならびに使用上のご注意

■ メンテナンスのご注意

- メンテナンス用ワックスの上にアルコールが滴下すると表面が白くなる場合があります。アルコールが直接床面に滴下しないように注意して下さい。
- メンテナンスは必ず指定のワックスまたは同等品により定期的に行って下さい。特に初期メンテナンスでは、シートの表面をアルカリ洗浄剤で十分に洗浄し、よくすすいだ後ワックスを塗布して下さい。ワックスは床シートの汚れを防ぎ、美観を保持します。詳細は本カタログ536頁をご参照下さい。
- 施工後、養生期間をおいてから洗浄剤でポリッシャー洗浄し、よくすすいだ後に各製品に応じたワックスを塗布して下さい（※1）。特に初期メンテナンスでは、シート表面を十分に洗浄した後ワックスを塗布して下さい。状況に応じて、固く絞ったモップでの水拭きによる1日の清掃回数を増やすなど、日常のメンテナンスにご留意下さい。（※1）各製品のワックスメンテナンスの詳細につきましては、555頁のワックスメンテナンス早見表もしくはサンプル帳をご参照下さい。

次ページへ続く